

ナンバリングコード BILFD-deaG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000001) ライフデザイン Life Design 想像力の教室 Reflections on Imagination	科目区分 ライフデザイン 水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 1Q金1 提供部局:大教センター DPコード:dea 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 佐藤 慶太	関連授業科目 哲学A, 哲学B, 哲学D, 倫理学C 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(事前学習15時間相当 + 事後学習15時間相当)			
<b>授業の概要</b> 過去や未来の世界、他者の痛み、ユートピア、ファンタジー…。人間は想像力によって様々なものを思い描きます。人間はこの能力を通じて、社会を改善したり、他者と豊かな人間関係を作り上げたりすることができます。一方で想像力の過剰/暴走が、自分や他者を傷つけることもありえます。このような二面性をもつ「想像力」にどのように向き合っていけばよいのでしょうか。この授業では「想像力」にそなわる可能性を哲学的に考察します。			
<b>授業の目的</b> 人間として生きるうえで「想像力」が果たす役割を哲学的に考察することを通じて、そこで生じる諸問題について、自分の主張を論証できるようになる。			
<b>到達目標</b>			
1. 社会において自分が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。 (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 2. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて理解することができる。 (共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応) 3. 「想像力」について、どのような哲学的な論点があるか、理解することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 4. 「想像力」に関する哲学的な問題について、自分の意見を述べ、根拠づけることができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業での課題への取組(40%:到達目標1、2に対応)と、レポート(60%:到達目標3に対応)によって評価する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1週 オリエンテーション - 「想像力」を養うことの意義 第2週 他者と想像力①—メディアと想像力 第3週 他者と想像力②—報道とフィクション 第4週 他者と想像力③—フィクションが私たちにもたらすもの 第5週 社会と想像力①—倫理的規範と想像力 第6週 社会と想像力②— 倫理的規範と地域文化の固有性 第7週 未来を想像することの意義 第8週 まとめ			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は、講義とワークの時間によって構成されます。講義の時間では、担当教員が想像力についての哲学者の考えや関連する現代の問題について解説します。ワークの時間では、教員が提示した問題について、グループでのディスカッションやミニレポートに取り組んでもらいます。  この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 概ね、次回で扱うテーマについての下調べと、グループディスカッションのテーマについてあらかじめ考えてくることが求められます。授業中に指示、アドバイスをしますので、それに従ってください。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書:授業中にプリントを配布します。参考書:授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 木曜日13:00~15:00 佐藤慶太研究室(教育学部5号館5F)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・グループワークがありますので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。			

<p>ナンバリングコード B1LFD-decG-10-Lg1  <b>授業科目名</b> (時間割コード:000002)  ライフデザイン  Life Design    地方で生きるということを考える  Discussing living in the countryside</p>	<p><b>科目区分</b>  ライフデザイン</p> <p><b>水準</b> 学士:入門科目  <b>分野</b> ライフデザイン</p> <p><b>授業形態</b> 講義  グループワーク</p>	<p><b>時間割</b> 2022年度  1Q金1</p> <p><b>提供部局</b>: 大教センター  <b>DPコード</b>: dec</p> <p><b>単位数</b> 1</p>	<p><b>対象年次</b> 1~</p> <p><b>対象学生</b> 全学生  特定プログラムとの対応  対応なし</p>
<p><b>担当教員名</b>  大村 隆史</p>	<p><b>関連授業科目</b> なし  <b>履修推奨科目</b> なし</p>		
<p><b>学習時間</b> 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間、事後学習15時間)</p>			
<p><b>授業の概要</b></p> <p>本授業では「私はどこで、どのように生きていくか」という問いを軸とした講義とグループワークを行います。従来の東京一極集中の時代から、地方創生の時代へと移りゆく昨今の状況を踏まえて、受講者自身が主体的に考え、自分たちの場所を自分たちで作っていくこと、ひいては社会や公共の担い手としての自覚を獲得していくことにつながる学びの場を用意します。</p> <p>具体的には、各回のテーマに関する講義を行ったあと、地方で暮らし、はたらく人びとに関するいくつかの事例について、グループでディスカッションをさせ、「地方」「暮らし」「仕事」といった人生とキャリアに関わる概念をめぐるそれぞれの率直なイメージを共有させ、自分の価値観を含む様々な価値観との出会いの場を創出します。</p>			
<p><b>授業の目的</b></p> <p>従来の東京一極集中の時代から、地方創生の時代へと移りゆくなかで、「地方で生きること」をテーマとした学習は従来の価値観を相対化し、新たな選択肢を自分事として捉えなおす重要な契機といえる。本授業を通じて、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。</p>			
<p style="text-align: center;"><b>到達目標</b></p>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「地方で生きること」の特徴を的確に捉えて議論に参加することができる。(共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応)</li> <li>2. 自分自身の人生とキャリアに照らしながら、主体的に「地方で生きること」の可能性と課題を論じることができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。</li> <li>3. 市民としての責任感や倫理観について理解を深め、「地方で生きること」と関連づけて論じることができる(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応)。</li> </ol>			
<p><b>成績評価の方法と基準</b></p> <p>毎回の授業の参加姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。さらに、期末に課すレポートの評価とあわせて、総合的に評価を行う。(各回レポート30%、グループワーク30%、最終レポート40%)</p>			
<p style="text-align: center;"><b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b></p>			
<p>●この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。</p> <p><b>【授業及び学習の方法】</b></p> <p>Moodleに本授業のコースがあります。コース内の指示に従って学習を進めてください。</p> <p>授業は第1~3回にテーマの論点と関わるいくつかの視点を提示し、事例検討に向けた学習をする。第4~8回に事例検討を中心としたグループワークを行い、討議の成果をグループ間で共有する。ここでは、3~4名程度で1組のグループになり、報告担当者が中心となって討議を進める。各事例を読み解く際の視点や論点、グループワークの進め方等については、教員から手引きが示されるため、討議の進め方がわからない者でも問題なく参加することができるよう用意されている。第8回にはまとめとふりかえりも予定している。なお、毎授業の最後にはミニレポートを書く。各回のテーマに関する資料はその都度提示する。</p> <p><b>【授業計画】</b></p> <p>第1回 ガイダンス、授業テーマの共有  授業の目的・内容・方法についてシラバスを用いて確認する。  授業テーマ「地方で生きるということ」について簡単なワークを行い、テーマに対する初期イメージの確認をする。</p> <p>第2回 日本の都市化と東京一極集中  日本の教育機関の変遷を軸に据え、都市化と過疎化が激化していく経緯を概観する。  キーワードとして「立身出世」、「金の卵」、「青年団」、「自己教育運動」などがある。</p> <p>第3回 コミュニティ政策の転換と地方創生  地域住民同士の連帯とネットワークが政策的に重視されはじめた時代の特徴を理解する。  キーワードとして、「地域福祉」、「ボランティア」、「自己実現」などがある。</p> <p>第4回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」1  参考書の西村佳哲『いま、地方で生きるということ』の159~175頁を素材としてグループワークをおこな</p>			

い、受講者同士の意見のやり取りを通じて市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

**第5回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 2**

参考書の西村佳哲『いま、地方で生きるということ』の141～158頁を素材としてグループワークをおこない、受講者同士の意見のやり取りを通じて市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

**第6回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 3**

参考書の西村佳哲『いま、地方で生きるということ』の78～107頁を素材としてグループワークをおこない、受講者同士の意見のやり取りを通じて市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

**第7回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 4**

参考書の西村佳哲『いま、地方で生きるということ』の202～221頁を素材としてグループワークをおこない、受講者同士の意見のやり取りを通じて市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

**第8回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 5 及びまとめ、振り返り**

参考書の西村佳哲『いま、地方で生きるということ』の181～201頁を素材としてグループワークをおこない、受講者同士の意見のやり取りを通じて市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

**【自学自習のためのアドバイス】**

講義では、就学や進学、社会移動という進路選択に関する事項と、コミュニティ、ケア、地方財政といった住民自治に関する事項を取り扱う。

講義の際に示された参考文献などの情報源から自学自習を進めることが望ましい。グループワークについては、授業時間外にグループで取り組む作業が課された際に、グループメンバー同士でのコミュニケーションの機会をしっかりと取って、情報共有と意見交換を行うことが望ましい。

**教科書・参考書等**

教科書は定めていない。参考書としては以下の通り。

- 木村元『学校の戦後史』岩波新書、2015年（本体780円＋税）。中央図書館に所蔵有。
  - 橘木俊詔『日本人と経済 労働・生活の視点から』東洋経済新報社、2015年（本体1,800円＋税）
  - 西村佳哲『いま、地方で生きるということ』ミシマ社、2011年（本体1,700円＋税）。同著者、タイトルの文庫版（筑摩書房、2019年、本体860円＋税）もある。
- ※授業の際には該当箇所のコピーを配布する予定のため、購入は必須ではない。関心がある場合は購入するなどして一読することをお勧めする。

**オフィスアワー** 研究交流棟 6階地域連携・生涯学習センター大村研究室

金曜日10:30から13:00までをオフィスアワーとする。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

グループワークを予定しているため、大幅な遅刻はグループメンバーへ迷惑をかけることとなります。どうしても時間通りの参加が適わないことが事前にわかっている場合は、必ず教員へ連絡をしてください。

ナンバリングコード BILFD-decG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000003) ライフデザイン Life Design ライフプランニングから見た金融 Finance from the perspective of life planning	科目区分 ライフデザイン 水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン 授業形態 講義	時間割 2022年度 1Q木5 提供部局:大教センター DPコード:dec 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 三好 秀和	関連授業科目 なし 履修推奨科目 なし		
学習時間 授業90分×8回 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
<b>授業の概要</b> パソコンの表計算ソフトを利用して、日本人の標準的なライフプランを作成します。その作成した結果から生活を全うするために必要な金融商品を学ぶことでライフプラン上必要な金融商品や仕組みはどのようなものかを学ぶことができます。ライフプランを作成すれば少子化問題、高齢化問題、非正規雇用問題、男女賃金差問題が具体的に理解できます。また、金融商品の意義がわかる一方で本来の目的から外れた金融商品の購入の仕方が理解できます。若い君たち大学生が今後どう生きていくべきかの指針を得ることができる授業です。			
<b>授業の目的</b> 人生に金融はどのように役立っているのでしょうか。この疑問に答えるためのベースとなっている人々に生活に焦点をあて日本人の標準的な生活を金銭的な視点で理解しながら金融の意義を学びます。そのために、公開されている統計データから日本人の生活をライフプラン作成の手法を通じて描き出す能力を身に付けることができます。そして、その能力は自分の将来を描きだすことができるようになり、さらには倫理観に即したあるべき姿を創造することになります。先人の知恵である金融商品がどのように生まれたか、その意義を学ぶことができます。			
<b>到達目標</b>			
1. 標準的なライフプランと金融商品の同時の学びで消費者トラブルが生じた原因を考え、市民としての責任感と倫理観を身につける。(市民としての責任感と倫理観対応) 2. 日本人の標準的なライフプランで人生について発見、気づき、社会の問題発見能力が養える。(広範な人文・社会・自然に関する知識対応) 3. レポートにおいて地域住民であり生活者である父母のライフプランを作成し、その中からの気づきにより地域課題を発見できる。(地域に関する関心と理解力に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 平常点40%、レポート60%、有益な発言意見には別途加点をおこなう。平常点は出席点ではありません。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 シラバスに基づいて授業の全体像を説明する。また、ライフプランとは何か。統計データをどう集めるか。家族のセットアップと家計統計について説明する。 第2回 収入1 日本人の平均年収、正規と非正規、男女賃金差、岡山の最低賃金を知る。 第3回 収入2 上場企業の年収、君のいきたい会社の年収は？その差の原因は何か？ 第4回 三大支出1 生活費、いくら日本人は生活費にお金をかけているか？消費者ローン、カード利用の問題点と利用方法。複利を味方につけるか敵に回すか？ 第5回 三大支出2 住宅費はいくらかかるか？賃貸と持ち家論争。住宅ローンにいくらかかるか？生命保険と損害保険の違いとそれぞれの特性を学んで夢を実現しよう。 第6回 三大支出3 老後資金2000万円問題。年金はいくらもらえるのか。 第7回 収支予測 キャッシュフロー分析で課題設定しよう。 第8回 資産運用 自己責任の時代を生き抜く。退職金、確定拠出年金は実は投資信託での運用です。投資信託のベースは何か。複利を味方にしよう。非課税商品を知ろう。分散投資の意味を知る。			
<b>【授業および学習の方法】</b> 講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜質問し回答してもらいます。このキャッチボールは柔軟な頭脳と瞬発力を高めます。知識一辺倒ではなく考える授業にし、問題解決能力を高めます。  この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 学習の課題となったデータを検索すること。学習の方法としてテキストを事前に読み全体像をつかんでおくこと(1時間程度)、授業で不明な点を解決すること、そして、復習としてレポート課題を少しずつ実施すること(1時間程度)が必要です。さらに、経済新聞や経済ドラマを見て金融機関とのかかわりが話題となっていないかに関心をもって観てください(1時間程度)。社会の仕組みの理解が深まります。特に倫理観の欠如が社会にどのように影響するかを想像することも大切となります。			

**教科書・参考書等**

教科書:三好秀和著2017『銀行・証券・保険業界のビジネスモデルで学ぶ 金融キャリアの教科書』経済法令研究会 ISBN978-4-7668-3346-1 1300円+税

参考書:三好秀和、佐々木一雄著2017『3年で退職しないための就活読本』同友館 ISBN978-4-496-05257-6 1600円+税

**オフィスアワー** 木曜日 4時限目、研究室は幸町南7号館3F。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

授業はパソコン持参必須です。レポート課題作成のために受講生家族のライフプランを作成してもらいますが、個人情報保護の観点からライフプラン自身は提出不要です。しかし、その作成した上でいくつかのポイントについてレポートしてもらいます。

**教員の実務経験との関連**

日本FP学会理事、確定拠出年金の試験制度であるDCプランナーの試験委員は2000年からしています。以前はビジネスマンとして金融機関に従事していました。資産運用会社でのトレーダー等の経験もあります。現在、香川大学のサークル、金融証券研究会の顧問をしています。

ナンバリングコード BILFD-deaG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000004) ライフデザイン Life Design 社会人になるための基礎を学ぶ To learn the basics for a member of society	科目区分 ライフデザイン 水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 3Q火2 提供部局:大教センター DPコード:dea 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 竹内 正興	関連授業科目 教育社会学 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習12時間+事後学習18時間)			
<b>授業の概要</b> 各回の授業において、キャリア、コミュニケーション、教育学の各基礎的理論の講義から問題設定を行い、グループでの議論、発表、担当教員からのフィードバックを中心に展開する。			
<b>授業の目的</b> これまでの自己を振り返り、教育学等の学問分野の基礎的な理論に触れながら、社会人として適応するためのマインド面を中心としたレディネスを形成する。			
<b>到達目標</b>			
1. 学生が、主に地域社会への貢献の観点から社会人として必要な能力・要件について理解を深めることができる。(共通教育スタンダードの「d:市民としての責任感と倫理観」に対応) 2. 主に、グローバルと地域社会の双方の観点から、地域に位置する大学に対する理解を深めることで、今後の大学生活全般に対する主体性を高めることができる。(共通教育スタンダードの「a:課題解決のための汎用的スキル」「e:地域理解/地域に関する関心と理解力」に対応) 3. 自己理解を学問と関連づけながら深めることで、学問に対する学びへの意欲を高めることができる。(共通教育スタンダードの「b:広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への主体的(積極的)参加(20%)、講義ごとの振り返りレポート(40%)、レポート課題(期末)(40%)とする。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業の方法】</b> この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては、一部または全ての授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>【授業計画】</b> 第1週 オリエンテーション:地域社会で求められる力について考える 第2週 地域社会で果たすべき役割(市民としての責任感と倫理観を中心に)考える 第3週 キャリア形成について考える 第4週 社会の中の自己について考える 第5週 コミュニケーション能力について考える 第6週 地域に魅力のある企業の特徴について考える。最終プレゼンテーションの準備 第7週 最終プレゼンテーション。 第8週 まとめ(45分授業) 講義ごとに課す振り返りレポートが授業の復習となります。			
<b>【自学自習に関するアドバイス】</b> ・第1週～第7週 授業の振り返り(復習)の中から自分自身の今後の行動に落とし込める要素を見つけ、それを実践できる具体的計画を立てコミュニケーション・レポートとして提出する。 ・第7週 最終プレゼンテーションの準備(予習)(グループでの作業+個人での準備)。			
<b>教科書・参考書等</b> 講義毎に指示します。			
<b>オフィスアワー</b> 1回目の授業でお伝えします。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・単位の取得のみが目的ではなく、授業に「積極的」に参加しようとする「意欲のある方」の受講を歓迎します。積極的に参加しようとする姿勢を持つことが、この授業を履修する前提と考えてください。また、「教育学」分野の領域を議論のための題材として扱うことが多いので、教育について関心のある方の受講を歓迎します。 ・グループワーク中心の授業形態のため、受講者数は100名以下としますが、第7週の最終プレゼンテーションについては、受講者数が50名以上となった場合、「グループワーク+レポート」に変更し、最終試験を実施する場合があります。 ・15分以上の遅刻は欠席とみなします。			
<b>教員の実務経験との関連</b> 企業の勤務経験が約20年あります。学問と企業経験で培った実務を融合しながら、講義・演習を行います。			

ナンバリングコード BILFD-debG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000005) ライフデザイン Life Design ワークライフバランスとキャリアデザイン Career design and work-life barance	科目区分 ライフデザイン 水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 1Q火1 提供部局:大教センター DPコード:deb 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 小方 朋子, 片岡 元子	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+(まとめ45分+試験45分)×1回+自学自習(準備学習20時間+事後学習10時間)			
<b>授業の概要</b> あなたはどんな大人になってどんな働き方を選びますか?ワークライフバランスの提唱や働き方改革など、日本人のライフスタイルが変化してきている今、自分がどのように育てられてきたのかを振り返りながら、社会人になったときに、生活と仕事と家庭のバランスをどうとるのか、人を育てるとはどういうことなのかを考えていきます。			
<b>授業の目的</b> 育てられた世代から、育てる世代へととなっていくという自覚を持ちながら、現代社会の課題に向き合えることと、将来の働く自分を想像し、社会人としての責任感と倫理観を自覚できるようになること。			
<b>到達目標</b>			
1. 現代の働き方についての課題を理解することができる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 地域社会の現状と課題に関心を持ち、自己と関連付けて理解することができる。(共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応) 3. 自分はどのように育てられてきたのか、自分の育ちを客観視できる。 4. 自分の将来のライフワークバランスのビジョンを持つことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み(ミニテスト、グループワークの活動状況、発表など) 50% (到達目標1、2、3に対応) 試験 50% (到達目標4に対応)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 地域社会を構成する大人になるということ 第2回 私の育てられ方(1)~私の名前~ 第3回 私の育てられ方(2)~生い立ちの記録を通して~ 第4回 現代の子育て事情 第5回 仕事と家庭 第6回 働き方改革について 第7回 現代の労働に関する課題と自分の働き方 第8回 まとめと試験			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第2回、第3回は自分の名前の由来やどのように育てられたかなど思い出などを題材にするので、両親などからきいておくこと。 第5回~第7回は現代の働き方(ジェンダー問題、家事育児、働き方改革など)を扱うので、現代社会で課題とされているものの情報を集めておくこと。 第8回の試験では自分の将来についても記述することになるので、疑問等やもっと知りたいことは自分で調べておくこと。  この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>教科書・参考書等</b> 資料はその都度配布します。			
<b>オフィスアワー</b> 小方 水曜1限 8号館2階 片岡 月曜4限 8号館5階			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> この授業はグループワーク中心のため受講生は100名程度とします。			

ナンバリングコード BILFD-debG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000006) ライフデザイン Life Design 地域で活躍する職業人に学ぶA Role Models of Life in Communities A	科目区分 ライフデザイン	時間割 2022年度 1Q月5	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン	提供部局:大教センター DPコード:deb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 原 瑞穂	関連授業科目 キャリアデザインと自己理解, キャリアデザインと 対人関係, キャリアデザインと地域貢献A/B		
	履修推奨科目 キャリアデザインと自己理解, キャリアデザインと 対人関係, キャリアデザインと地域貢献A/B		
学習時間 授業90分×7講+授業45分×1講+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 本授業では、地域の各分野で、職業人として地域社会を支えている人達がいることを紹介します。ゲスト講師 講話では、各学部の進路に関係の深い業界から、ロールモデルとして紹介したい職業人を招聘し、業界の動向 や具体的な仕事、その方の志を語って頂きます。また、皆さんがキャリアを考える際に、具体的に活用できる 代表的なキャリア理論を講義します。			
<b>授業の目的</b> 皆さんが、自らのキャリアをデザインすることを支援するため、本授業は、学生が、①キャリアに関する基本 知識を理解すること、②各界のロールモデルの生き方や働き方のリアリティに触れること、③視野・見識を広 げ、キャリアの選択肢を広げること、を目的にしています。			
<b>到達目標</b>			
①社会において自己が果たすべき役割や市民としての責任ある行動について理解を深め、自己や社会の未来に ついて考えることができる。(「市民としての責任感と倫理観」に対応) ②自己のキャリア形成に役立つ基礎知識を理解するとともに、具体的な行動へつなげることができる。 ③地域社会を支える仕事や人について、具体的に説明できる。(「地域に関する関心と理解力」に対応) ④現時点における自分の人生のイメージを言葉にして表すことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み姿勢及び各回提出のポートフォリオ(40%)、期末レポート・発表(60%)をもとに判断する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 講話 オリエンテーション・市民としての責任感と倫理観 第2回 講義 キャリアとキャリア形成 第3回 講話 ゲスト1 四国新幹線整備促進期成会 (JR四国) 第4回 講話 ゲスト2 製造:株式会社フソウ四国本社 第5回 講話 ゲスト3 医療:香川県小豆保健所 第6回 講話 ゲスト4 製造:帝國製薬株式会社 第7回 講話 ゲスト5 公務:高松市役所 第8回 講義 まとめ			
<b>【授業および学習の方法】</b> 様々な業界から職業人を講師として招聘します。登壇者の所属・役職名は令和4年3月時点のものです。 この科目は基本的に対面授業を予定しています。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更 する可能性があります。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1～2回 大学生生活4or6年間及び卒業後の進路について考察する。 第3～7回 各ゲスト講師の所属する業界や職業上の特徴について調べるとともに、自己への適性を測る。 第8回 授業での学びを自己のキャリア形成にどのように活かすかを明確にし、具体的な行動を考える。			
<b>【注意事項】</b> ① ゲスト講師は、授業終了後も時間の許す範囲で残っていただきますので、異世代とのコミュニケーション 能力を高める機会として活かしてください。 ② ポートフォリオの提出をもって出席確認とします。出席していない回のもものは提出することが出来ませ せん。 ③ 本講義は「地域で活躍する職業人に学ぶB」(第2Q)とゲスト講師が異なりますので、内容も違ってお ります。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認してから履修してください。			
<b>教科書・参考書等</b> 各講、レジュメを配布する。			
<b>オフィスアワー</b> [原則] 水曜日10～12時 キャリア支援センター(大学会館2階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・本授業の内容は、2021年度以前開講の「地域で活躍する職業人に学ぶ～未来へ羽ばたけ編～」と内容が重 複するため、2021年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。			

- ・外部講師を招聘しますので、遅刻などないよう特に留意してください。
- ・ゲスト講師は第1Q、第2Qともに5名です。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認して、より自分のキャリアに活かせる方を履修してください。

#### **教員の実務経験との関連**

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー〔大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等〕の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード BILFD-debG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000007) ライフデザイン Life Design 地域で活躍する職業人に学ぶB Role Models of Life in Communities B	科目区分 ライフデザイン	時間割 2022年度 2Q月5	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン	提供部局:大教センター DPコード:deb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 原 瑞穂	関連授業科目 キャリアデザインと自己理解, キャリアデザインと 対人関係, キャリアデザインと地域貢献A/B		
	履修推奨科目 キャリアデザインと自己理解, キャリアデザインと 対人関係, キャリアデザインと地域貢献A/B		
学習時間 授業90分×7講+授業45分×1講+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 本授業では、地域の各分野で、職業人として地域社会を支えている人達がいることを紹介します。ゲスト講師 講話では、各学部の進路に関係の深い業界から、ロールモデルとして紹介したい職業人を招聘し、業界の動向 や具体的な仕事、その方の志を語って頂きます。また、皆さんがキャリアを考える際に、具体的に活用できる 代表的なキャリア理論を講義します。			
<b>授業の目的</b> 皆さんが、自らのキャリアをデザインすることを支援するため、本授業は、学生が、①キャリアに関する基本 知識を理解すること、②各界のロールモデルの生き方や働き方のリアリティに触れること、③視野・見識を広 げ、キャリアの選択肢を広げること、を目的にしています。			
<b>到達目標</b>			
①社会において自己が果たすべき役割や市民としての責任ある行動について理解を深め、自己や社会の未来に ついて考えることができる。(「市民としての責任感と倫理観」に対応) ②自己のキャリア形成に役立つ基礎知識を理解するとともに、具体的な行動へつなげることができる。 ③地域社会を支える仕事や人について、具体的に説明できる。(「地域に関する関心と理解力」に対応) ④現時点における自分の人生のイメージを言葉にして表すことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み姿勢及び各回提出のポートフォリオ(40%)、期末レポート・発表(60%)をもとに判断する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 講話 オリエンテーション・市民としての責任感と倫理観 第2回 講義 キャリアとキャリア形成 第3回 講話 ゲスト1 金融:株式会社百十四銀行 第4回 講話 ゲスト2 製造:株式会社マキタ 第5回 講話 ゲスト3 公務:香川県教育委員会 第6回 講話 ゲスト4 公務:香川労働局 第7回 講話 ゲスト5 公務:香川県警察本部 第8回 講義 まとめ			
<b>【授業および学習の方法】</b> 様々な業界から職業人を講師として招聘します。登壇者の所属・役職名は令和4年3月時点のものです。 この科目は基本的に対面授業を予定しています。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更 する可能性があります。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1～2回 大学生生活4or6年間及び卒業後の進路について考察する。 第3～7回 各ゲスト講師の所属する業界や職業上の特徴について調べるとともに、自己への適性を測る。 第8回 授業での学びを自己のキャリア形成にどのように活かすかを明確にし、具体的な行動を考える。			
<b>【注意事項】</b> ① ゲスト講師は、授業終了後も時間の許す範囲で残っていただきますので、異世代とのコミュニケーション 能力を高める機会として活かしてください。 ② ポートフォリオの提出をもって出席確認とします。出席していない回のもものは提出することが出来ませ せん。 ③ 本講義は「地域で活躍する職業人に学ぶB」(第2Q)とゲスト講師が異なりますので、内容も違ってお ります。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認してから履修してください。			
<b>教科書・参考書等</b> 各講、レジュメを配布する。			
<b>オフィスアワー</b> [原則] 水曜日10～12時 キャリア支援センター(大会館2階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・本授業の内容は、2021年度以前開講の「地域で活躍する職業人に学ぶ～地域を元気に編～」と内容が重複 するため、2021年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。・外部講師を招聘し			

ますので、遅刻などないよう特に留意してください。

・ゲスト講師は第1Q、第2Qともに5名です。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認して、より自分のキャリアに活かせる方を履修してください。

**教員の実務経験との関連**

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー〔大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等〕の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード BILFD-deaG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000008) ライフデザイン Life Design キャリアデザインと自己理解 Career Design and Self-Understanding	科目区分 ライフデザイン 水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 1Q木1 提供部局:大教センター DPコード:dea 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 原 瑞穂	関連授業科目 地域で活躍する職業人にA・B、キャリアデザインと対人関係、キャリアデザインと地域貢献A・B 履修推奨科目 地域で活躍する職業人にA・B、キャリアデザインと対人関係、キャリアデザインと地域貢献A・B		
学習時間 授業90分×8講+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 本授業では、キャリアデザインおよび職業適性についての講義を通して、「自分は何がやりたいのか」また「自分には何が向いているのか」と考えてもらいます。主なキャリア理論に従い、自分の経験や興味関心などによって職業適性への考察を深めるというものです。			
授業の目的 自分自身のキャリアをデザインするため、キャリア形成のプロセスを理解するとともに、ステージごとに自己の目標を設定するための授業です。皆さんが、①キャリアに関する基礎知識を理解すること、②視野・見識を広げ、キャリア形成の選択肢を広げること、③キャリアにおいて長期的かつ戦略的な取り組みが可能となるスキルの獲得を目的にしています。			
到達目標 ①社会において自己が果たすべき役割や市民としての責任ある行動について理解を深め、自己や社会の未来について考えることができる。「市民としての責任感と倫理観」「地域理解/地域に関する関心と理解力」に対応 ②キャリアにおける自己の興味・適性・能力を認識し、各々の項目を増やしていきける。 ③自らの気づきや感情を言語化したうえで、自己のキャリアデザインに反映することができる。「課題解決のための汎用的スキル」に対応			
成績評価の方法と基準 授業への取り組み姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。期末レポートの評価をそれに加味して総合評価を行います。(各回ポートフォリオ20%、授業への取り組み姿勢20%、最終レポート30%、発表30%)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション.市民としての責任感と倫理観 第2回 自己理解(職業興味・価値観) 第3回 自己理解(体験を振り返る) 第4回 自己理解(基礎力、目標設定) 第5回 ゲスト:味の素(株)「私のキャリア形成」 第6回 自己理解(職務適性を考える) 第7回 今後の学生生活の目標(発表) 第8回 講義 まとめ  【授業および学習の方法】 本授業は、講義とグループワークからなります。 ワークには心理テスト、職務適性テスト、ワークシートなどを使用予定です。 この科目は基本的に対面授業を予定していますが、状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。  【自学自習のためのアドバイス】 第1~4回 キャリア形成において自己を知るワークを通して自らの力を認識し大学生生活の目標を立てる。 第5回 ゲスト講師のキャリア形成の話聞き、自己のキャリア形成を考える。 第6~7回 職務適性テストの結果とこれまでのワークをもとに今後の計画を立てプレゼンテーションする。 第8回 全体の振り返りを行う。			
教科書・参考書等 適宜レジュメや参考資料等を配付			
オフィスアワー [原則]水曜日10~12時 キャリア支援センター(大学会館2階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・本授業の内容は、2021年度以前開講の「キャリアデザインと職業適性イ・ロ」と内容が重複するため、2021年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。 ・グループワークでは途中からの出席を認めない場合があるので、ケアレスミスでの遅刻がないように留意すること。			

#### 教員の実務経験との関連

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー [大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等] の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード BILFD-deaG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000009) ライフデザイン Life Design キャリアデザインと対人関係 Career Design and Interpersonal Relationships	科目区分 ライフデザイン 水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 3Q金2 提供部局:大教センター DPコード:dea 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 原 瑞穂	関連授業科目 キャリアデザインと自己理解、キャリアデザインと地域貢献A・B、地域で活躍する職業人に学ぶA・B 履修推奨科目 キャリアデザインと自己理解、キャリアデザインと地域貢献A・B、地域で活躍する職業人に学ぶA・B		
学習時間 授業90分×8講+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 本授業では、キャリアデザインを考える上で避けては通れない他者との関係について考えたいという学生を主な対象に、キャリアデザインおよび職業適性についての講義を行います。中心となる考え方は、主なキャリア理論に従い、対人関係からキャリア形成への考察を深めるというものです。			
<b>授業の目的</b> 自分自身のキャリアをデザインするため、キャリア形成のプロセスを理解するとともに、ステージごとに自己の目標を設定するための授業です。学生が、①キャリアに関する基礎知識を理解すること、②視野・見識を広げ、キャリア形成の選択肢を広げること、③キャリアにおいて長期的かつ戦略的な取り組みが可能となるスキルの獲得を目的にしています。			
<b>到達目標</b>			
①社会において自己が果たすべき役割や市民としての責任ある行動について理解を深め、自己や社会の未来について考えることができる。「(市民としての責任感と倫理観)」「(地域理解/地域に関する関心と理解力)」に対応 ②キャリアにおける対人関係能力の必要性を認識し、各々の項目を増やしていける。 ③自らの気づきや感情を言語化したうえで、自己のキャリアデザインに反映することができる。「(課題解決のための汎用的スキル)」に対応			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。期末レポートの評価をそれに加味して総合評価を行います。(各回ポートフォリオ20%、授業への取り組み姿勢20%、最終レポート30%、発表30%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション.市民としての責任感と倫理観 第2回 自己理解(対人関係) 第3回 自己理解(リフレーミング) 第4回 自己理解(他者へのインタビュー) 第5回 ゲスト:元SONYの方「私のキャリア形成と人間関係」 第6回 自己理解(職務適性を考える) 第7回 今後の学生生活の目標(発表) 第8回 講義 まとめ			
<b>【授業および学習の方法】</b> 本授業は、講義とグループワークからなります。 ワークには心理テスト、職務適性テスト、ワークシートなどを使用予定です。 この科目は基本的に対面授業を予定していますが、状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1~4回 キャリア形成において他者との関係から自己を知るワークを通して自らの力を認識し大学生生活の目標を立てる。 第5回 ゲスト講師のキャリア形成の話を聞き、自己のキャリア形成を考える。 第6~7回 職務適性テストの結果とこれまでのワークをもとに今後の計画を立てプレゼンテーションする。 第8回 全体の振り返りを行う。			
<b>教科書・参考書等</b> 適宜レジュメや参考資料等を配付			
<b>オフィスアワー</b> [原則] 水曜日10~12時 キャリア支援センター(大学会館2階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・グループワークでは途中からの出席を認めない場合があるので、ケアレスミスでの遅刻がないように留意すること。			
<b>教員の実務経験との関連</b>			

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー [大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等] の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード BILFD-decG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000010) ライフデザイン Life Design 私たち(主権者)と公共・代表 We as the sovereign and public life, representatives	科目区分 ライフデザイン 水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 1Q火2 提供部局:大教センター DPコード:dec 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 三野 靖, 堤 英敬	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習20時間 + 事後学習10時間)			
<b>授業の概要</b> この授業の前半では、今日の公共的課題(若者の引きこもり問題とインターネット上での誹謗中傷問題)についてグループで議論し、それを解決するための政策立案を行います。世の中に存在する社会問題をめぐっては様々な価値観や考え方がありますが、そうした多様性を理解し、お互いの違いを認めた上で、多面的な観点から思考するとともに、合意形成の方向性を探っていきます。後半は、私たちの意思が選挙を通じた代表者の選出を介して、政策の決定にどのように繋がっていくのかを学びます。			
<b>授業の目的</b> 国や地方自治体の活動や、地域や社会における様々な課題(「公共的課題」)が「私たち(主権者)」の生活とどう関わっているかを考え、議論するなかで、政策を決定し実施する国や自治体の代表者(「代表」)を選ぶことの意義、ひいては主権者としての意識の醸成とその責任について考えることが、この授業の目的です。			
<b>到達目標</b>			
1. 地域や社会における公共的課題が自らの生活とどう関わっているか、関わってくるかを理解できる。(共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 公共的課題について多様な価値観や考え方を理解し、多面的に思考することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 公共的課題について、他者と協働的に議論することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 4. 公共的課題を解決するための政治のあり方、代表の意義、主権者としての責任について思考することができる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への参加の度合(40%)、グループ報告の内容と政策討論会での対応(20%)、公共的課題に関するレポート(35%)、選挙での投票に関するレポート(5%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 基本的に、6人程度のグループによるグループ・ワークを中心として授業を進めます。前半(第2週~第6週)は、若者の引きこもりの問題もしくはインターネット上での誹謗中傷問題をテーマとして、グループでの議論を通じた政策立案を行います。第5~6週には各グループの報告と政策討論会を行う予定です。また、後半は選挙についての学習を行います。第7週には、選挙に関する基本的な仕組みを確認した上で、グループ・ワークを通じて、日本の政党の政策的立場のマッピングを行います。それを受けて、第8週に意見交換を行います。 なお、この授業は全回、対面授業を行います。			
<b>【授業計画】</b> 第1週 ガイダンス、若者の引きこもり問題・インターネット上での誹謗中傷問題の基礎知識 第2週 グループ討議(1):論点の整理 第3週 グループ討議(2):現状の把握 第4週 グループ討議(3):政策の立案 第5週 グループ報告と政策討論会:若者の引きこもり問題 第6週 グループ報告と政策討論会:インターネット上での誹謗中傷問題 第7週 選挙の基礎知識・日本の政党の政策的立場 第8週 日本の政党の政策的立場:意見交換(45分授業)			
<b>【自学自習の指示】</b> 第2週 グループ内で分担して、政策課題の論点を用意する(3時間)。 第3週 グループ内で分担して、課題の現状が把握できる資料を用意する(3時間)。 第4週 グループ内で分担して、政策課題の解決に資する政策を考える(3時間)。 第5~6週 グループで報告資料の作成など報告・討論の準備を行う(6時間)。第8週までに、政策立案に関するレポートを作成する(8時間) 第7週 配付資料などを参考にしながら、政党の政策的主張をまとめる(5時間)。 第8週 選挙での投票に関するレポートを作成する(2時間)。			

**教科書・参考書等**

教科書は使用しません。

**【参考書】**

総務省・文部科学省『私たちが拓く日本の未来：有権者として求められる力を身に付けるために』2015年  
([http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000492205.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000492205.pdf))

**オフィスアワー** 三野：火曜13:00～14:00（研究室:幸町南6号館5F）

堤：月曜12:30～13:30（研究室:幸町南6号館5F）

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

グループワーク中心の授業形態のため、受講者数は100名程度とします。

<p>ナンバリングコード BILFD-decG-10-Lx1  <b>授業科目名</b> (時間割コード:000011)  ライフデザイン  Life Design  多様なライフ・キャリアを考えるー男女共同参画の視点から  Diversity in life and career from the perspective of gender equality</p>	<p><b>科目区分</b>  ライフデザイン</p> <p><b>水準</b> 学士:入門科目  <b>分野</b> ライフデザイン</p> <p><b>授業形態</b> 講義</p>	<p><b>時間割</b> 2022年度  1Q木5</p> <p><b>提供部局</b>:大教センター  <b>DPコード</b>:dec</p> <p><b>単位数</b> 1</p>	<p><b>対象年次</b> 1~</p> <p><b>対象学生</b> 全学生  <b>特定プログラムとの対応</b>  対応なし</p>
<p><b>担当教員名</b>  柴田 潤子, 黒澤 あずさ</p>	<p><b>関連授業科目</b> D(ダイバーシティ)&amp;I(インクルージョン)入門  <b>履修推奨科目</b> D(ダイバーシティ)&amp;I(インクルージョン)入門</p>		
<p><b>学習時間</b> 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)</p>			
<p><b>授業の概要</b></p> <p>価値観の多様化が進む社会の中で、自分らしい生活・ライフデザイン・キャリアを設計・形成することは、益々重要となっている。本授業では、「男女共同参画」を基軸とした価値観をキャリア・ライフデザインにどのように位置づけていくかを考えるための講義を提供する。</p> <p>多様な分野で活躍されている主に実務家によるオムニバス形式によって、授業を構成する。まず、男女共同参画についての総論から始める。キャリアデザインを構築するにあたって、子育ての問題・労働法制の問題を取り上げ、ジェンダー問題を社会・法的な視点から検討する。さらに、具体的なキャリアとの関係で、社会参加の課題として裁判への参加、政治におけるジェンダー問題を理解できる様にする。</p>			
<p><b>授業の目的</b></p> <p>生き方を取り巻く環境の変化に伴い、人間の生き方は大きく変わると予測され、前の世代の人生をコピーするだけでは幸せに生き抜かれられない時代が到来している。本授業では、長い人生において、様々な価値感が存在する社会で「男女共同参画社会」という価値観を、ジェンダー問題、キャリア、地域社会という観点から広く共有し、人間の尊重を基礎に据えた、自分らしいキャリア・ライフデザインを考えることができるようにする。</p>			
<p style="text-align: center;"><b>到達目標</b></p>			
<p>1. 現代における社会全般・地域社会の「男女共同参画」をめぐる課題を理解し、その意義を述べることができる。(共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応)</p> <p>2. 「男女共同参画」社会の実現に向けた自らのキャリア・ライフプランを述べることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「市民としての責任感と倫理観」に対応)</p>			
<p><b>成績評価の方法と基準</b></p>			
<p>授業中に課す授業メモ(ミニレポート)等(20%、到達目標1)、期末レポート(80%、到達目標1,2)で評価する。</p>			
<p style="text-align: center;"><b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b></p>			
<p>第1回 「男女共同参画推進社会」について総論-「どんな個人も尊重して生きられる社会を目指して」  Counsellor, Permanent Mission of Japan to the International Organizations in Geneva, 永田真一先生 / 男女共同参画推進室長 柴田潤子教授 オンラインでの実施</p> <p>第2回 「ジェンダーの視点で考える『社会』と『法』」 香川県弁護士 佐藤倫子先生</p> <p>第3回 「誰もが生き生きと働くために ~男女共同参画の視点から働き方を考える」  香川労働局雇用環境・均等室長 佐藤真理子先生</p> <p>第4回 「議会：意思決定の場に多様性を」 高松市議会議員 太田あゆみ先生</p> <p>第5回 「体験しよう裁判員、聞いてみよう経験談~18歳以上のあなたも選ばれます~」  高松地裁刑事部裁判官、裁判員経験者</p> <p>第6回 「裁判所における女性の活躍」 高松地方裁判所</p> <p>第7回 「子育て家庭の現状と課題、必要な支援とは」 NPO法人わははネット理事長 中橋恵美子先生担当</p> <p>第8回 (6/2) ゲストスピーカー/まとめ 男女共同参画推進室(室長・柴田潤子/特命講師 コーディネーター・黒澤あずさ)</p>			
<p>この科目は基本的に対面授業を行います。第1回は、講師の先生の都合上(スイス・ジュネーブ在住)、遠隔講義となります。</p>			
<p>第1週のガイダンスで授業の概要を説明し、評価方法等についての情報を伝えます。  なお、講師及び授業内容、順序には講師の都合で若干変更が生ずる事があります。</p>			
<p>講義は、パワーポイントを中心に進めます。ムードルに資料を掲載しますので、ムードルは必ずご確認ください。</p>			
<p>各回の講義に参加し関心を持った分野についてのリサーチを加え、最終レポートを作成します。  準備学習として、男女共同参画に関する問題について自分なりに情報を集め、考察を行い、事後学習としては、講義の内容を基に他の文献等を参考にして、自らの考えを整理する様にしてください。</p>			
<p><b>教科書・参考書等</b> 特になし。</p>			

**オフィスアワー** ダイバーシティ推進室(北5号館1F)の開室時間(9時半から16時半)。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

授業について、授業メモの提出を求めています。

本授業の内容は、2021年度以前開講の主題A「男女共同参画の視点からライフデザインを考える」と内容が重複するため、2021年度以前に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。

**教員の実務経験との関連**

地域及び全国で活躍され、子育て支援や男女共同参画に関わる実務経験、実務家(弁護士・労働局)経験にもとづき、講義を行います。

ナンバリングコード BILFD-deaG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000012) ライフデザイン Life Design D (ダイバーシティ) &I (インクルージョン) 入門 Introduction to Diversity & Inclusion	科目区分 ライフデザイン 水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン 授業形態 講義	時間割 2022年度 1Q木1 提供部局:大教センター DPコード:dea 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 柴田 潤子, 黒澤 あずさ	関連授業科目 多様なライフ・キャリアを考える 履修推奨科目 多様なライフ・キャリアを考える		
学習時間 講義90分×7回+講義45分×1回+自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
<b>授業の概要</b> 少子高齢化、情報化、グローバル化など、社会環境の大きな変化に対応し、共生社会の実現に一層の貢献をしていくためには、多様性を尊重し、認め受け入れるD&I(ダイバーシティ&インクルージョン)の推進が必要です。本学では、2021年10月「D&I推進宣言」を行い、構成員一人ひとりの多様な個性や価値観、考え方を等しく尊重し、活躍できるように、「D&I基本方針」を策定しました。この授業では、学内外の教員によるオムニバス形式によって、ジェンダー、障害、多文化、性の多様性、大学、企業などの幅広い視点からD&Iについて学びます。			
<b>授業の目的</b> D&Iについての基礎的な知識を学び、理解を深めるとともに、その知識を活用してD&I実現のための施策を考察できるよう、レポート課題を適宜取り入れる予定です。また、D&Iを自分事として捉え、大学でどのように学び、生活を送っていくかをデザインする一助になればと考えています。			
<b>到達目標</b>			
1. D&I について複合的な視点から理解し、市民としての責任ある行動に理解を深めることができる(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)。 2. D&I 推進のためには何が必要なのか。地域の現状等と比較しながら具体的に説明することができる(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応)。 3. 自分の主張をわかりやすく記述することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業中に課すミニレポート20%(特に到達目標1、3に対応)、期末レポート80%(特に到達目標2、3に対応)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション(柴田潤子・黒澤あずさ)*初回は45分授業 第2回 多文化共生を考える(植村友香子先生:地域・産学官連携戦略室特命准教授<グローバル担当>) 第3回 障害を考える(坂井聡先生:教育学部教授、バリアフリー支援室長) 第4回 ユニバーサルデザインを考える(中島美登子先生:創造工学部准教授) 第5回 ジェンダーを考える(園部裕子先生:経済学部教授) 第6回 見えない生きづらさを考える(長谷綾子先生:医学部臨床心理学科講師) 第7回 性の多様性を考える(葛西真記子先生:鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授) 第8回 ダイバーシティマネジメントを考える(吉澤康代先生:地域マネジメント研究科准教授)			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は、講義が中心で、D&Iに関わる多様な分野を専門とする学内外の教員によるオムニバス形式で行います。また、各回でミニレポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します。期末レポートでは、各回の講義を受講し関心を持った分野を一つ以上取り上げ、考察し、学内におけるD&I推進のための施策・提案を加えたレポートを作成します。この科目は、基本的に対面授業を行います。一部の授業では遠隔授業を行います。なお、講師および授業内容、順序には講師の都合で若干変更が生ずることがあります。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 毎回の準備学習として、新聞、雑誌、書籍、インターネット等でD&Iに関する情報を収集し、考察を行ってください。事後学習としては講義の内容を基に、授業内で提示された文献等を参考にして、自らの考えを整理し、ミニレポートにまとめて提出してください。			
<b>教科書・参考書等</b> 授業中に適宜紹介します。			
<b>オフィスアワー</b> 全般的な点については、コーディネーターの黒澤へ(オフィスアワー:ダイバーシティ推進室の開室時間)、事前に予約をすることが望ましい。個々の講義内容については、授業中に講義担当者に相談をしてください。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 講義が中心ですが、受講者間で意見交換などを行う場合もあります。			

ナンバリングコード BILFD-debG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000013) ライフデザイン Life Design 学ぶ・働く・生きる learning, working and living	科目区分 ライフデザイン	時間割 2022年度 1Q木1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン	提供部局:大教センター DPコード:deb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小方 直幸	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+ (まとめ45分+試験45分) ×1回+自学自習(当該課題の復習およびGWに向けた予習で毎回30分～1時間程度)			
<b>授業の概要</b> あなたはなぜ大学に進学しようと考え、そして今の大学・学部を選びましたか。そして、これからの172,800分をどう使うつもりですか。高校までとは異なる大学1年次の学び方は、4年間の学びの土台となるもので、とても大切です。これまでのあなたの学びを振り返り、卒業後の仕事や働き方に思いをめぐらせ、そして人生100年時代をどのように生きるかを、仲間と対話しながら考えます。			
<b>授業の目的</b> この授業の目標は、学ぶこと・働くこと・生きること、とはどのようなことなのか、先人の考えに触れつつ、自身の学び、卒業後の仕事、そして生き方についてまずは考え、それを授業の仲間と交流することでブラッシュアップし、他者の生き方も受け容れつつ、自身の将来を見据え、倫理観に裏付けられた責任ある市民に向けた準備をすることです。			
<b>到達目標</b>			
①学ぶこと・働くこと・生きることとは何かを考える上での自己基盤を作れること ②自らの経験や考えを他者と共有することで、自身と他者の考え方や価値観をより理解できるようになること (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」&「地域に関する関心・理解力」) ③在学中の過ごし方を、学び・働く・生きる、という総合的な視点から設計できるようになること			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業時の取組60% (到達目標1と2に対応) 、試験40% (到達目標3に対応)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【各回の内容】</b> 1: 導入 2: 学ぶとは～大学での学びの本質を考える 3: 自身にとっての大学での学び 4: 働くとは～仕事を意味づけ将来の職業を展望する 5: 自身にとっての仕事の意味・意義 6: 生きるとは～人として市民として地域の一員として 7: 自身の生き方の設計 8: まとめと試験  <b>【授業の方法】</b> 基本的に対面授業で行います。なお、コロナ等の状況に応じてオンラインを併用したり、全面オンラインに切り替える可能性もあり、その際には適宜連絡をします。また課題の提示や提出等はMoodleを通じて行う予定ですので、PCを使った授業外活動も前提となります。こちらも授業中に指示や説明を行います。			
<b>【自学自習について】</b> 学ぶ、働く、生きるをそれぞれ2回セットで行う予定です。各テーマに関して授業で学んだことを自身の経験とも関連させて復習し、それを踏まえて他者とのグループワークに向けた準備を行ってください。これまでの自身の生き方や考え方をテーマごとに予め振り返った上で授業にのぞみ、授業で得た知識・考え方を、さらに受講者間での交流によりブラッシュアップし、当初の考え方と比較し、今後の学生生活ひいては卒業後の生活の指針としていってもらえると幸いです。自身だけの学びには良くも悪くも限界があります。他者と積極的に関わり、考え方の視野をいったん広げた上で、改めて選択をしていってください。			
<b>教科書・参考書等</b> 資料は授業時に配布します			
<b>オフィスアワー</b> 木曜2限 8号館4階			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> この授業はグループワークを重視しているため、受講生は100名程度とします。PC必携化に伴い、パソコンも授業時に活用する予定ですので、必ず持参してください。			

ナンバリングコード BILFD-decG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000014) ライフデザイン Life Design 身近な生活における支援を考える Support in daily life	科目区分 ライフデザイン	時間割 2022年度 3Q金2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン	提供部局:大教センター DPコード:dec	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 大沼 泰枝	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習10時間+事後学習20時間)			
<b>授業の概要</b> 私たちの社会は人が支えあうことで成り立っています。普段、健康で問題なく過ごしている時は、その存在に気を留めませんが、様々な支援が身近な生活の中にあります。まずは、家族や友人との関係について振り返り、身近な対人関係における支援について考えます。次に、大学内のピア・サポートについて学び、ピア・サポート活動が活発に行われるための方法について学生の視点で検討します。さらに、社会保障や自治体(地域)の支援制度について知り、それらの仕組みがどのように成り立ち、どのような時に活用できるのかについて学びます。			
<b>授業の目的</b> この授業の目的は、私たちの生活が人や社会から支えられ、そして支えることで成り立っていることを理解することです。具体的には、家族間や友人間、学生間のサポート、国や自治体(地域)の支援制度等について学び、グループワークを通じて理解を深めます。「支援」をキーワードに、個人として果たすべき社会的役割と責任、配慮ある市民としての行動について理解し、そこから自己や社会の未来について考えます。			
<b>到達目標</b>			
1. 家族や友人との関係を振り返り、その経験についてグループ内で話すことができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 大学内のピア・サポート活動に関心を持ち、その活性化のための方法について学生の視点でアイデアを出すことができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 国の社会保障や自治体(地域)の支援制度を自分の生活と関連付けることができる (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」、「地域に関する関心と理解力」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の小レポート (20%) 達成目標1・2・3に対応 グループワーク (30%) 達成目標1・2・3に対応 最終レポート (50%) 達成目標2・3に対応			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション 第2回 家族関係 : 家族からの支援 第3回 子育て・介護 : 家庭内におけるケア 第4回 友人関係 : 友人関係における支援 第5回 大学内のサポート : 障害のある学生への支援 第6回 ピア・サポート : 学生間の支援 第7回 社会からの支援 : 社会保障制度、自治体(地域)の支援制度 第8回 まとめ			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 講義の他に毎回グループワークを行います。			
<b>【自主学習のためのアドバイス】</b> 第1回 身近な生活における支援について学ぶことの意味を考える 第2回 日本の家族の現状について統計資料などに基づいて考察する 第3回 子育てや介護に関する自治体(地域)の支援事業について調べる 第4回 青年期の友人関係について考察する 第5回 大学構内のバリアフリーチェックを行う 第6回 ピア・サポート活動について調べる 第7回 社会保障制度について調べる			
教科書・参考書等 適宜資料を配布します。			
オフィスアワー 金曜日 12:00~13:00 バリアフリー支援室(5号館1階)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 家族関係や友人関係といった個人的な内容をグループワークで扱うため、互いを尊重し、配慮しあうことを必要とします。グループワーク中心の授業形態のため受講者数は100名程度とします。			

### 教員の実務経験との関連

臨床心理士として、病院・相談機関・学校などで勤務経験があり、現在は障害のある学生を支援するバリアフリー支援室の業務を行っています。この授業では、「支援」をキーワードに、学生の皆さん一人ひとりが、自己や社会の未来について考える機会につなげたいと思います。

ナンバリングコード BILFD-debG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000015) ライフデザイン Life Design 人生100年時代の学びと仕事を考える Learning and work in the 100 year time period	科目区分 ライフデザイン 水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 1Q火1 提供部局:大教センター DPコード:deb 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 蝶 慎一	関連授業科目 学問基礎科目 全般 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 人生100年時代と言われます。高校までの進路選択や人生を振り返りながら、香川大学入学後に大きく多様に広がっていく学びやキャリア、ライフデザインに関わる重要なテーマやトピックについて基本的な知識や概念、考え方を知り、理解する時間とします。そして、今後の人生、キャリアを考える契機とします。			
<b>授業の目的</b> 人生100年時代を見据え、自分自身の人生とキャリアを考えるきっかけとするために、「仕事・職業」「キャリア」「進路・就職」「学びなおし」の主な実態やそれらに関連する問題を理解し、目的意識を持ちながら今後のキャリアデザインを主体的に行うための知識を身につける。			
<b>到達目標</b>			
1. 「仕事・職業」「キャリア」「進路・就職」「学びなおし」に関連する基礎的な知識・理解を幅広く習得し、具体的に説明できる(共通教育スタンダード「b 広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. これからの大学での学びを再考するきっかけを見つけるとともに、自分自身のライフデザインについて具体的に見つめなおし、討議できる(共通スタンダード「d 市民としての責任感と倫理観」に対応)。 3. 「仕事・職業」「キャリア」「進路・就職」「学びなおし」をめぐる地域に関する興味関心について、これまで自分が何を考えてきたのかを振り返ることで、必要な学問的基礎を身に付けることができる(共通教育スタンダード「e 地域に関する関心と理解力」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・各週の「振り返りシート」、授業でのディスカッションへの取組、70%(到達目標の1及び2.に対応) ・最終レポート 30%(到達目標の1.及び3.に対応)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
第1週 オリエンテーション 第2週 人生100年時代と令和の日本型学校教育 第3週 大学教育の動向と特徴 第4週 学部から新卒、転職 第5週 これからの仕事と職業、地域社会 第6週 令和における大学院教育とキャリアデザイン 第7週 学びなおしとリカレント教育 第8週 まとめ ―市民として新たな学びの時代へ  【授業及び学習の方法】 この授業は、人生とキャリアに関する基本的な知識・理解を深める講義、受講生からのディスカッション、「振り返りシート」に対するフィードバックなどで主に構成されます。大学に入学し、新たな学びの内容や環境、今後の人生とキャリアについて自分自身で考える授業とします。なお、受講生の人数や関心等で授業計画(各週で扱う内容)が前後することがあります。  【自学自習のためのアドバイス】 自分自身が関心のある「仕事・職業」、「キャリア」、「進路」、「学びなおし」などに関するトピックについて、①最近の文献や雑誌記事などを入手し(5時間)、②その中から興味関心のあるものを選択し、簡潔に要約し(15時間)、③面白いと考えた文献や今後考えてみたい点を文章で説明してください(10時間)。その際に下記で示している参考書等も参照して下さい。なお、この自学自習は、授業における最終レポートの作成準備になります。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書:特にありません。 参考文献:玄田有史『仕事のなかの曖昧な不安―揺れる若年の現在』(中公文庫)中央公論新社、2005年。 大竹文雄『競争社会の歩き方 自分の「強み」を見つけるには』(中公新書2477)中央公論新社、2017年。 メアリー・C・ブリントン(池村千秋訳)『失われた場を探して ロストジェネレーションの社会学』NTT出版、2008年。 吉見俊哉「第四章 人生三回、大学に入る」『「文系学部廃止」の衝撃』(集英社新書)集英社、175-225頁、2016年。			

**オフィスアワー** 基本的には、火曜日2校時、研究室は、北キャンパス5号館4階です。詳細は、担当教員に相談して下さい。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

各週に出席確認を兼ねて「振り返りシート」を書いてもらいます。前提となる知識は特に不要です。これからの大学での学びや人生、キャリアについて一緒に考えてみましょう。

ナンバリングコード B1LFD-edaG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000021)	科目区分 ライフデザイン	時間割 2022年度 1Q金2	対象年次 1～
ライフデザイン Life Design	水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン	提供部局:大教センター DPコード:eda	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
映像から学ぶ香川の歴史と文化、地域の課題 Kagawa's History, Culture and Issues by Video-based Learning	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 岡田 徹太郎, 西本 佳代	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(事前学修21時間 + 事後学習9時間)			
<b>授業の概要</b> 香川に関わる映像資料を基礎教材とした地域理解に資する授業です。地域の歴史や文化に触れることによって地域の魅力を認識すると同時に、地域の課題を明らかにし、それらの解決へ向けて取り組む人びとや団体について学びます。地域に対する関心と理解を深めるとともに、地域のなかで何をなすうか、自らの役割について考えてもらいます。			
<b>授業の目的</b> 地域社会について理解を深め、地域に根ざした学生として行動するため、必要な知識を得て、それを活用する方法を身につけることを目的とします。			
<b>到達目標</b>			
1. 香川の歴史と文化、地域の課題について説明できる。(共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 人びとの取り組みへの理解を得て、自らのキャリアについて、いくつかの候補を挙げることができる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任観と倫理感」に対応) 3. 学修内容に応じた自分の主張をわかりやすく記述し発表できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の予習(40%)・授業内学習(30%)・復習(20%)のそれぞれの課題、及び最終課題(10%)に対応した提出物による得点(合計100点)によって、学則にしたがった成績(秀・優・良・可・不可)を付ける。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1週 オリエンテーション、グループ分け、アイスブレイキング、教材の配布。 第2週 情報整理の方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法(ダイジェスト)についてグループ学修。 第3週 映像資料①「近・現代史における香川の政治家群像」(武重雅文・名誉教授)を題材とするレポート発表、グループワーク、プレゼンテーション。 第4週 映像資料②「香川県の地域活性化プロジェクト」(西成典久・教授)を題材とするレポート発表、グループワーク、プレゼンテーション。 第5週 映像資料③「観音寺市PR助手とまこインタビュー」(岡田徹太郎・教授)を題材とするレポート発表、グループワーク、プレゼンテーション。 第6週 映像資料④「香川県の里海づくり」(末永慶寛・教授)を題材とするレポート発表、グループワーク、プレゼンテーション。 第7週 映像資料⑤「高松市の公共交通政策」(紀伊雅敦・教授)を題材とするレポート発表、グループワーク、プレゼンテーション。 第8週 全授業を通じた総括グループワークと総括プレゼンテーション。チェックアウト。  この科目は基本的に対面授業を行います。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては授業形態の一部または全部を遠隔へ変更する可能性があります。  <b>【授業及び学習の方法】</b> 映像資料を用いた反転学習によるアクティブ・ラーニング型授業とします。クラスの中で4人(人数調整によって3または5人となることもある)グループを組んでもらい、グループごとに学修してもらいます。事前学習として、①香川県にまつわる映像資料を視聴し、②関連する文献や情報を検索して、要点や疑問点をまとめた予習課題を提出してもらいます。授業の冒頭で、予習課題に基づいたレポート発表をしてもらいます。引き続き、各回のテーマに沿って、グループワーク(グループ内での対話)を行ってもらいます。授業の最後には、グループでの対話の結果を発表するプレゼンテーションを行ってもらいます。授業後に復習となる振り返りレポートを提出してもらいます。			

予習課題・授業内ワークシート・復習課題の提出は、全員の必須としますが、受講生多数の場合、授業内プレゼンテーションは、代表グループによるローテーションとします。

**【自学自習のためのアドバイス】**

- 第1週 復習となる振り返りレポートの提出（1時間）、次週に向けた予習課題（3時間）。
- 第2週 復習となる振り返りレポートの提出（1時間）、映像資料①による予習課題（3時間）。
- 第3週 復習となる振り返りレポートの提出（1時間）、映像資料②による予習課題（3時間）。
- 第4週 復習となる振り返りレポートの提出（1時間）、映像資料③による予習課題（3時間）。
- 第5週 復習となる振り返りレポートの提出（1時間）、映像資料④による予習課題（3時間）。
- 第6週 復習となる振り返りレポートの提出（1時間）、映像資料⑤による予習課題（3時間）。
- 第7週 復習となる振り返りレポートの提出（1時間）、総括のためのレポート課題（3時間）。
- 第8週 最終課題（レポート）の作成と提出（2時間）。

**教科書・参考書等**

大学教育基盤センターが提供する印刷資料、映像資料をテキストとする。

**オフィスアワー** 火曜日IV限 幸町南キャンパス南7号館3階南端（岡田），  
水曜日II限 幸町北キャンパス北5号館4階（西本）

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

グループワークを軸とした学びとなるため、グループに貢献できるよう、各個人の積極的な関わりを期待する。

ナンバリングコード BILFD-edbG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000022) ライフデザイン Life Design 地域社会におけるSDGs達成への取り組み Local community and SDGs	科目区分 ライフデザイン	時間割 2022年度 1Q金2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 ライフデザイン	提供部局:大教センター DPコード:edb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 ロン リム, 高水 徹, 塩井 実香, 原 直行, 和田 健司	関連授業科目 プロジェクトさぬき		
	履修推奨科目 プロジェクトさぬき		
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習 (事前学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b>			
この授業が扱うのは、SDGs (持続可能な開発目標) です。近年、小学校から高校まででSDGsが扱われ、学生の皆さんは各種活動等を通してSDGsに触れてきていると思います。香川大学も、さまざまな形でSDGsに取り組みできました。その一方で、大学生になっても、SDGsが「学習の対象」のまま、皆さんが社会の一員として達成を目指していく、という認識に乏しい場合も多いのではないのでしょうか。本授業を通して、SDGsについての知識を深め、地域社会、つまり、香川県、県内の行政、企業、大学、その他各種団体による取り組みを知っていただきます。SDGsは、地域の課題であると同時に、世界が取り組まなければならない国際的な課題です。世界のそれぞれの地域には、それぞれの課題があります。この授業は、皆さんが行動する契機、学びを深める契機になることを目指しています。			
<b>授業の目的</b>			
SDGsについての知識を深め、SDGsが地域社会の課題であるとともに国際的課題であることを理解し、今後の自分自身の行動につなげ、専門的な学びを深める契機とします。			
<b>到達目標</b>			
1. SDGsに関する理解を深め、地域や大学による取り組みを説明することができる (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 上記の取り組みを国際的視野で説明できる (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 上記に基づき、自分自身は何ができるか、また、貢献するために今後どうしていくかを表現できる (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b>			
ミニレポート50%、最終レポート50% 皆さんの最終レポートの内容は、一部を最終週に取り上げて共有することを予定しています。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1週 インTRODクション、成績評価、SDGs概要 第2週 SDGs概要 (続き) 第3週 SDGsに取り組む国際社会 (インターナショナルオフィス ロン・リム) 第4週 オーバーツーリズム、エコツーリズム、サステナブル・ツーリズムといったSDGsに密接に関わる観光について、近年の動きや取り組み事例を紹介しながら説明 (経済学部 原 直行) 第5週 アプリなど使った障害のある人への支援 (教育学部 坂井 聡) 第6週 SDGs11「住み続けられるまちづくりを」の視点から、機構の取り組みについて紹介 (四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 長谷川 修一) 第7週 SDGs14「海の豊かさを守ろう」、SDGs13「気候変動に具体的な対策を」に関して、海を中心に我々がこれまでにどのような環境問題を経験し、現在、どのような問題に面しているのか (農学部 一見 和彦) 第8週 まとめ			
<b>【授業及び学習の方法】</b> この科目の授業は講義形式で行います。毎回ミニレポートを課します。 講義は基本的に対面で実施します。状況によっては授業形態を一部または全て遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>【自学自習について】</b> 自分の興味のある分野や専門とする予定の分野のみではなく、地域として、大学として、日本として世界の中で、という視点を持ち続けながら、主体的な学びを継続してください。 授業で取り扱った分野の理解度を上げる学習に加え、それを具体化するための方法論を学び、考察してください。			
<b>教科書・参考書等</b> 必要な資料等は随時配布します。			
オフィスアワー 高水:火曜日 14:40~16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」			

塩井：木曜日 14:40～16:20「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」  
ロン：水曜日 13:00～14:00「南キャンパス2号館、インターナショナルオフィス」  
ただし、事前予約が確実です。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

上記の通り、ミニレポートも成績評価に必要で、それを書き、提出するためには出席が必要です。

**教員の実務経験との関連**

担当する教員は、以下の経験を有しています

- ・ 地域における活動の実践
- ・ 上記を含む授業の計画・実施
- ・ 国際的なSDGsに関する活動の計画・実施
- ・ 各部局におけるSDGs関連の研究・活動

<p>ナンバリングコード B1LFD-edcG-10-Lg1  <b>授業科目名</b> (時間割コード:000023)  ライフデザイン  Life Design  地域をデザインする思考と実践  Consideration and Practice of  Design Local area</p>	<p><b>科目区分</b>  ライフデザイン</p> <p><b>水準</b> 学士:入門科目  <b>分野</b> ライフデザイン</p> <p><b>授業形態</b> 講義  グループワーク</p>	<p><b>時間割</b> 2022年度  1Q火2</p> <p><b>提供部局</b>: 大教センター  <b>DPコード</b>: edc</p> <p><b>単位数</b> 1</p>	<p><b>対象年次</b> 1~</p> <p><b>対象学生</b> 全学生  特定プログラムとの対応  対応なし</p>
<p><b>担当教員名</b>  西成 典久</p>	<p><b>関連授業科目</b> 地域活性化プロジェクトⅠ、まちづくり論(経済学部開設科目)  <b>履修推奨科目</b> 地域活性化プロジェクトⅠ、まちづくり論(経済学部開設科目)</p>		
<p><b>学習時間</b> 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(事前学習15時間相当 + 事後学習15時間相当)</p>			
<p><b>授業の概要</b></p> <p>自分の住んでいる地域をより良くしていきたい、持続可能で豊かな地域の実現に貢献したい、地域と関わりたい、こうした思いを持って入学してきた学生に向けて、本講では、どうすれば地域の課題解決に向けた取り組みを具現化(デザイン)することができるか、その考え方(思考)と実現方法(実践)について様々な事例をもとに講義を進めていく。本講は、特に地域の活性化やまちづくり政策、観光振興や環境デザインといった分野を目指す初学者に向けた講義内容となっている。</p>			
<p><b>授業の目的</b></p> <p>地域の衰退や持続性への懸念が社会問題となって久しい状況にある。人口が増加する規模拡大社会から人口が減少する規模縮小社会へと移行するなかで、日本の地方では、地域経済、自然、環境、医療、食、文化、コミュニティなど、連関する分野で様々な課題が表出している。本講では、こうした日本の地域をめぐる課題や現状を理解したうえで、地域との対話と実践を通じて課題解決を図る立場から、その思考と実践に関する基礎的な知識や考え方を習得することを目的としている。</p> <p>また、持続可能な地域づくりを意識的かつ主体的に進めていくためには、自分一人で全てを成し遂げることは難しく、その地域と深い関わりを持つ他者との協力関係を築き、「一人の百歩より百人の一步」が生み出される偶然的状況を意識的ににつくり出していく必要がある。そのためには、地域課題に関する知識だけでなく、実践者としての倫理観やリーダーシップを自ら育成していくことも求められている。</p>			
<p style="text-align: center;"><b>到達目標</b></p>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>日本の地域をめぐる現状と課題を他人に説明することができる。 (共通教育スタンダードの「地域に関する関心と理解力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)</li> <li>アイデア思考の基礎的なスキルを習得することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)</li> <li>地域での課題解決に向けた実践活動について理解を深め、実践に向けた企画を立案することができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)</li> </ol>			
<p><b>成績評価の方法と基準</b></p>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>講義の取り組みと提出物 (50点)</li> <li>レポートもしくはテスト (50点)</li> </ol>			
<p style="text-align: center;"><b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b></p>			
<p><b>【授業計画】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>イントロダクション 地域のミライを構想する  イタリア中小都市マテーラとの比較 地域の豊かさとは</li> <li>地域とどう関わるか  日本の地域をめぐる諸問題 地域と対話し実践する私たちの挑戦</li> <li>地域をデザインする思考法 (1) まちづくりのプランニング  プランのつくり方・ロジカルシンキング</li> <li>地域をデザインする思考法 (2) 問題解決思考  問題解決の思考技術・ゼロベース思考・ロジックツリー</li> <li>地域をデザインする思考法 (3) 論理的思考からアイデア思考へ  問題解決の思考技術・アイデア思考が開く未来</li> <li>地域をデザインする実践法 (1) 状況をデザインする  つながりの場をつくるコミュニティデザイン 五郷里づくりの会</li> <li>地域をデザインする実践法 (2) プロジェクトの起こし方  will・can・must企画3円について</li> <li>まとめ  アイデア思考から実践へ</li> </ol> <p><b>【授業及び学習の方法】</b>  授業は講義形式とグループワーク形式によって進めていきます。  毎回、授業後に講義の感想や気付きについてリアクションペーパーを提出してもらいます。</p>			

この科目は基本的に対面授業で実施しますが、一部の授業回では遠隔授業とする可能性があります。  
なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

**【自学自習についてのアドバイス】**

全体を通じて、地域振興やまちづくりに関する参考書や記事を事前に読み、実際にいくつかの現場を訪れることを薦めます。

第2回 地域に対する自分自身の問題意識を明確化するためにも、自分の考えを文章化してみましょう。

第3～4回 自分自身が関心をもつ地域の課題を発見し、課題解決に向けた方策を考えてみましょう。

第5～7回 地域の課題解決や魅力創造のプランをどう実現するか、様々な事例を調べてみましょう。

**教科書・参考書等**

特定の教科書は使用せず、参考書は適宜紹介します。

**オフィスアワー** 日時については講義中に伝えます。

研究室の場所は幸町南3号館3階の西成研究室です。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

地域の課題解決や魅力創造に貢献したいと思って入学した新入生はぜひ履修してください。

もちろん、地域の活性化に関心の強い2年生以上の学生メンバーも履修おすすめします。

本講はグループワーク等、他者と話し合う機会が講義中に多くあるため、それを理解したうえで履修してください。遠隔式の場合でも、グループワークは基本的にカメラオンで参加してもらいます。

本授業の内容は、2021年度開講の主題C講義型科目「地域をデザインする思考と実践」と内容が重複するため、2021年度に当該科目の単位を取得した学生は本授業を履修できません。

**教員の実務経験との関連**

国や自治体の調査・計画立案や環境整備事業に関する実務経験があります。

企業や大学での実務経験をもとに、講義内容を組み立てていきます。